

第284回柏崎地域早期景気観測調査 報告書

— 令和5年7月期 —

【インデックス】

- 1 全産業(P.2)
- 2 建設業(P.3)
- 3 製造業(P.4)
- 4 卸売業(P.5)
- 5 小売業(P.6)
- 6 サービス業(P.7)

【調査方法】

会員企業1社に対して、毎月下旬に【業況】【売上】【採算】【資金繰り】【仕入単価】【従業員】【資金借入難易感】の7項目について「前年同月比」(※従業員D Iについては今期水準) および「向こう3ヵ月の先行き見通し」の調査を依頼、翌月上旬までに寄せられた回答を集計し、その結果をD I値で表します。

D I値は、実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを含みます。

【DI値とは】

D I値(景況判断指数)とは、「増加・好転」などの回答割合から「減少・悪化」などの回答割合を引いたもので、景況感の方向、強弱を示します。

【業況】…「好転」-「悪化」	【売上】…「増加」-「減少」
【採算】…「好転」-「悪化」	【資金繰り】…「好転」-「悪化」
【仕入単価】…「下落」-「上昇」	【従業員】…「不足」-「過剰」
【資金借入難易感】…「容易」-「困難」	

【調査対象業種】

建設業	総合工事業、設備工事業、職別工事業
製造業	鉄鋼・金属製品・機械器具製造業、食料品・印刷・窯業・土石製品製造業
卸売業	建材・鉱物・機械器具卸売業、飲食料品・衣服等卸売業
小売業	飲食料品小売業、衣料・身の回り品・その他小売業
サービス業	宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業

【調査対象数・回答状況】

業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全産業
調査対象数	38	45	27	26	36	172
回答数	24	28	12	13	23	100
回答率(%)	63.2%	62.2%	44.4%	50.0%	63.9%	58.1%

<移動平均分析>

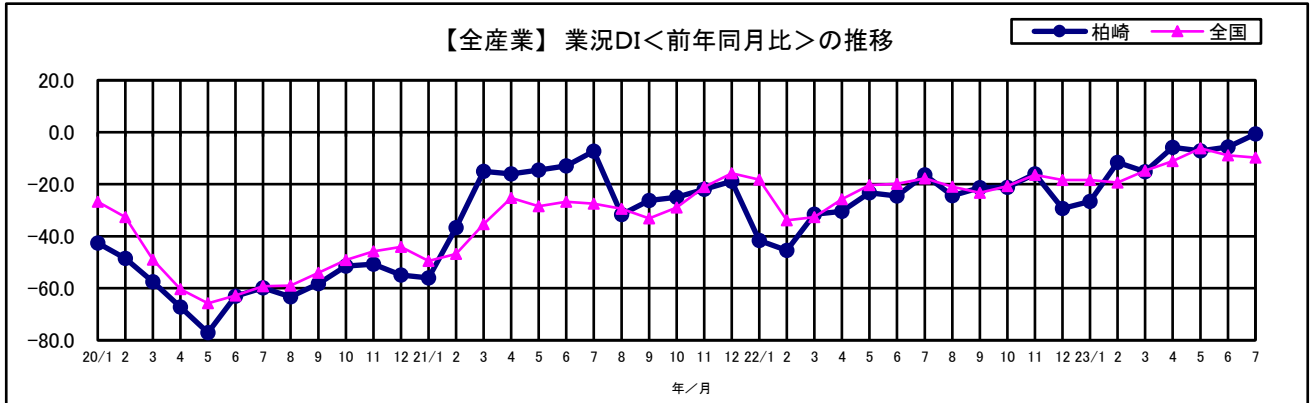
時系列データで見た場合、データの変化が激しく、基本的な変化の傾向がつかみにくいことがあります。移動平均という方法を用いることにより、データ全体の変化の傾向を解析することができます。

ここでは、業況・売上・採算の三項目について、当該月を含めて過去6ヶ月分の平均値を連続的に求め、グラフ化しています。

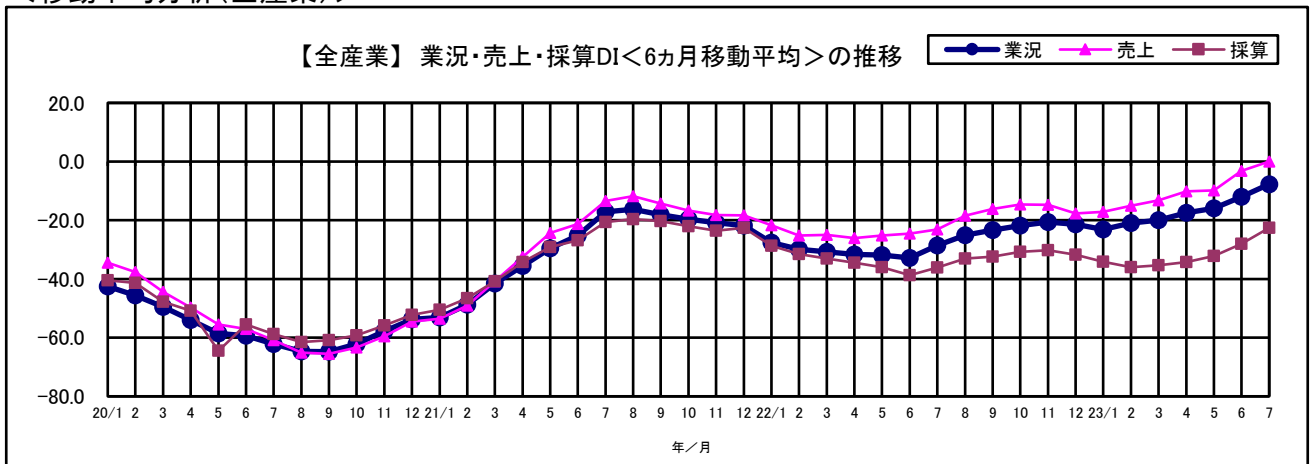


◆概況(全産業合計)

項目		23年2月	23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	先行き見通し 8月~10月
業況	柏崎	▲11.6	▲15.2	▲5.8	▲7.2	▲5.7	▲0.7	▲5.7
	全国	▲19.4	▲14.8	▲11.1	▲6.2	▲8.9	▲9.8	▲12.5
売上	柏崎	▲8.1	▲0.5	3.8	▲10.1	9.7	5.3	1.5
	全国	▲3.0	1.9	6.3	5.7	4.0	4.0	▲2.0
採算	柏崎	▲42.5	▲26.6	▲14.6	▲19.9	▲19.6	▲12.1	▲6.6
	全国	▲26.7	▲20.1	▲16.0	▲12.3	▲14.1	▲14.2	▲16.2
資金繰り	柏崎	▲12.1	▲9.7	▲6.4	▲7.1	▲6.0	▲2.1	▲4.5
	全国	▲16.9	▲15.1	▲12.9	▲10.6	▲12.3	▲11.8	▲12.9
仕入単価	柏崎	▲77.6	▲70.4	▲66.5	▲67.5	▲63.6	▲64.2	▲57.0
	全国	▲76.3	▲75.1	▲74.4	▲70.4	▲69.4	▲67.1	▲59.1
従業員	柏崎	14.5	▲15.4	20.9	▲21.7	18.1	23.7	28.2
	全国							22.2
資金借入難易感	柏崎	▲2.1	▲1.7	2.1	0.3	0.6	▲0.1	▲2.1



<移動平均分析(全産業)>



【7月期全国全産業の動向】

●全産業合計の業況DIは、▲9.8

建設業では、建設資材やエネルギー価格の高止まりによるコスト負担増で悪化となった。一方で製造業では、国内の設備投資が堅調に推移するほか、挽回生産が進む自動車関連が牽引し、改善した。卸売業では、輸送費の高騰に加え、小売業・サービス業からの引き合いが減少し、悪化した。また、小売業・サービス業では、個人消費に一服感が見られる中、天候不順による客足の減少が重なり、悪化した。

経済活動は回復基調が続き、価格転嫁も一部では進捗が見られるが、労務費・販管費の上昇分までの十分な価格転嫁は行えていない。また、需要増に伴う人手不足も深刻化しており、中小企業の業況は、ほぼ横ばいで足踏みしている。

●先行き見通しDIは、▲12.5

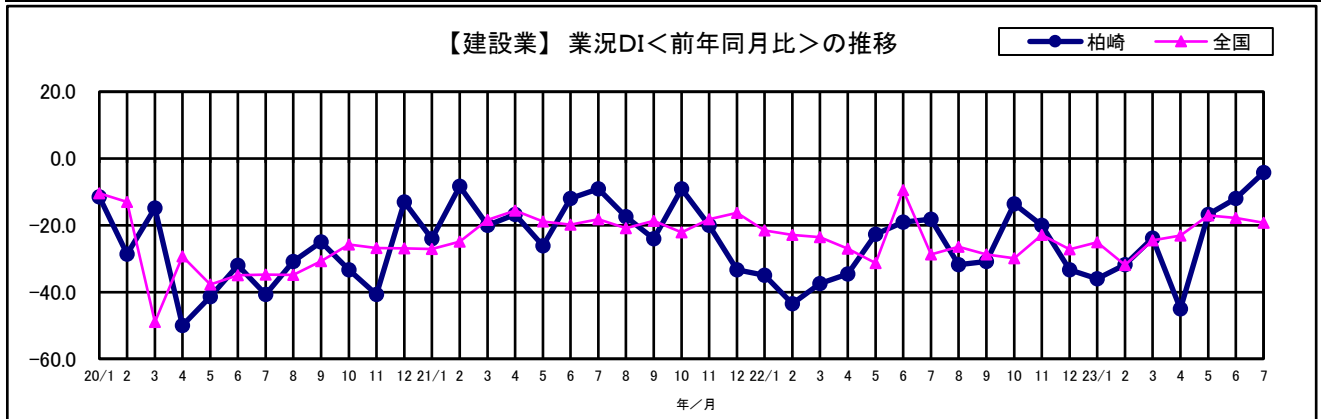
夏休み需要の本格化を控え、個人消費やインバウンド需要のさらなる拡大への期待感が伺える。一方、需要増に対する人手不足や、物価高による日用品等の買い控えへの懸念は継続している。また、政府の激変緩和策の段階的縮小でエネルギー価格は上昇傾向にあり、一層のコスト増が危惧されている。海外経済の鈍化による外需の停滞も懸念されており、中小企業の先行きは、慎重な見方が続いている。

【7月期柏崎全産業の動向】

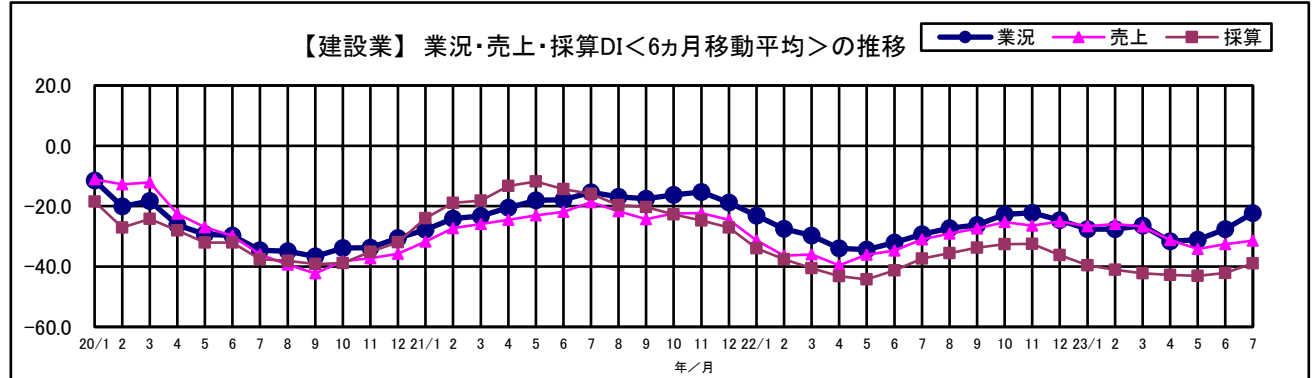
業況・採算・資金繰りDIでマイナス幅の縮小が見られたが、仕入れ単価DIは依然として原材料・エネルギー価格高騰の影響により、マイナス幅の拡大が見られた。売上DIは前月同様プラス域の推移となっているが、来月期は▲7.3とマイナス域に転じる見通しとなっている。

【建設業】

項目		23年2月	23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	先行き見通し 8月～10月
業況	柏崎	▲ 31.8	▲ 23.8	▲ 45.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 4.2	▲ 12.5
	全国	▲ 31.9	▲ 24.5	▲ 23.1	▲ 17.0	▲ 17.8	▲ 19.2	▲ 15.7
売上	柏崎	▲ 40.9	▲ 28.6	▲ 45.0	▲ 33.3	▲ 16.0	▲ 25.0	▲ 16.7
	全国	▲ 22.4	▲ 11.9	▲ 13.8	▲ 13.6	▲ 15.6	▲ 14.4	▲ 6.4
採算	柏崎	▲ 50.0	▲ 38.1	▲ 35.0	▲ 37.5	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 25.0
	全国	▲ 37.2	▲ 26.6	▲ 25.8	▲ 26.0	▲ 22.2	▲ 26.6	▲ 20.2
資金繰り	柏崎	▲ 13.6	▲ 9.5	▲ 10.0	▲ 12.5	▲ 12.0	▲ 4.2	▲ 12.5
	全国	▲ 11.4	▲ 12.8	▲ 10.5	▲ 8.0	▲ 8.8	▲ 6.7	▲ 9.3
仕入単価	柏崎	▲ 77.3	▲ 81.0	▲ 70.0	▲ 66.7	▲ 60.0	▲ 58.3	▲ 54.2
	全国	▲ 81.4	▲ 84.4	▲ 83.1	▲ 76.8	▲ 74.1	▲ 75.0	▲ 63.5
従業員	柏崎	27.3	19.0	15.0	33.3	32.0	37.5	37.5
	全国							34.6
資金借入難易感	柏崎	▲ 4.5	▲ 4.8	15.0	▲ 4.2	0.0	▲ 4.2	▲ 12.5



<移動平均分析(建設業)>



【全国建設業の動向】

公共工事は受注増が継続しているものの、技術者の高齢化や深刻な人手不足の継続に加え、建設資材・エネルギー価格の高止まりや2024年問題への対応の本格化に伴う負担増で、悪化。

<日本商工会議所に寄せられた声>

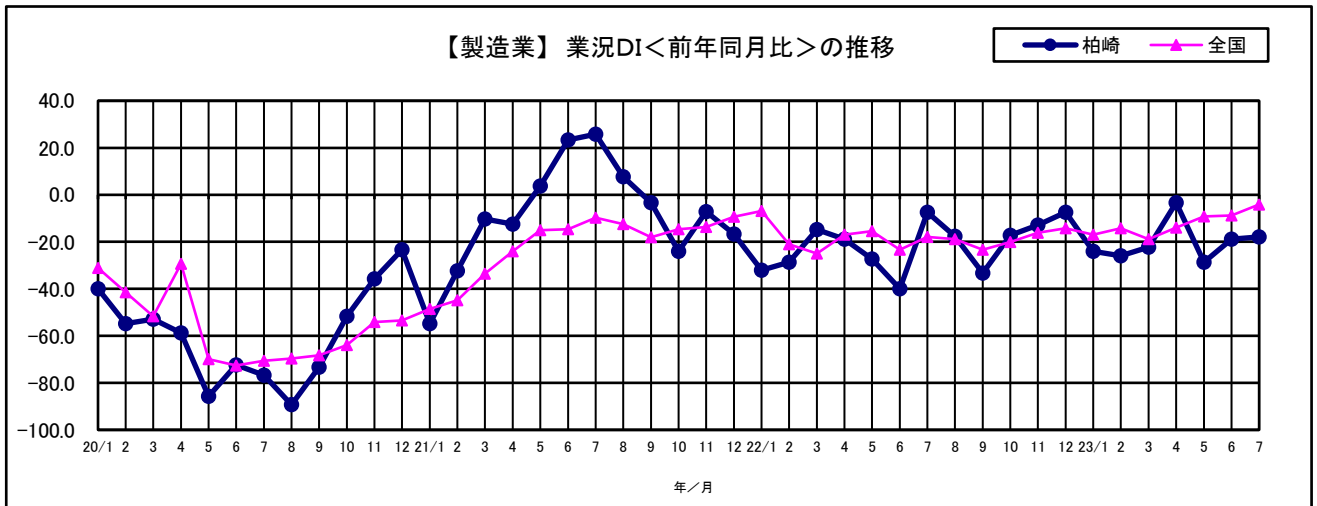
- ・「事業承継を契機に、会社全体の若返りを図るべく、中堅の即戦力人材や新卒の採用を重点的に実施。あわせて働き方改革に向けて労働時間の管理を強化する等、生産性を高めていこう改善を図っている」(大工工事業)
- ・「2024年問題への対応が本格化する中、具体的な対応が追いついていない。他社・他業種の動向を参考に残業規制等への取組を進めていく」(一般工事業)

【柏崎建設業の動向】

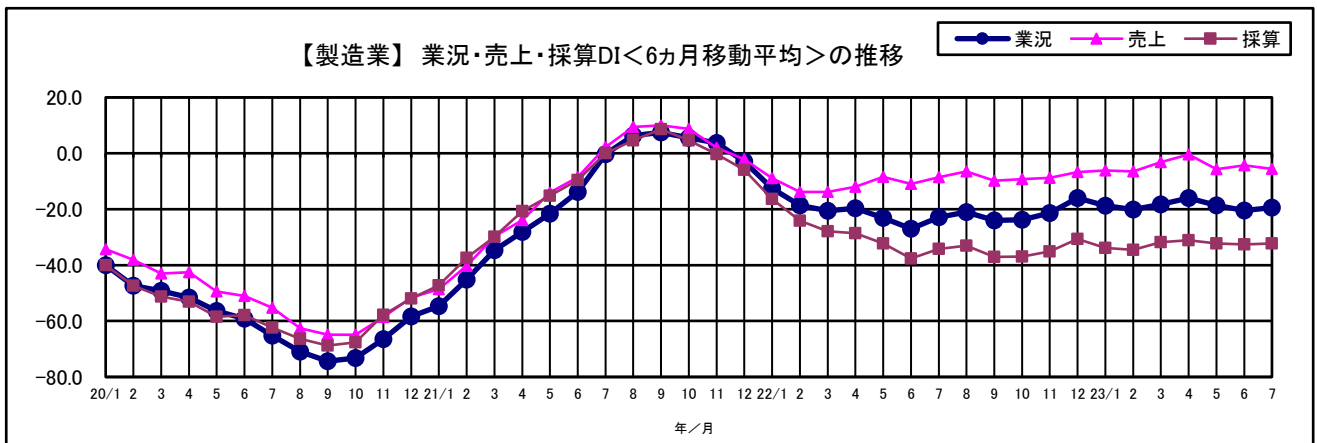
業況・採算・資金繰り・仕入れ単価DIでマイナス幅の縮小が見られた。先行き見通しの業況DIは▲12.5とマイナス幅が縮小する見通しである。

【製造業】

項目		23年2月	23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	先行き見通し 8月~10月
業況	柏崎	▲ 25.9	▲ 22.2	▲ 3.3	▲ 28.6	▲ 18.8	▲ 17.9	▲ 10.7
	全国	▲ 18.4	▲ 18.9	▲ 13.9	▲ 9.2	▲ 8.8	▲ 4.1	▲ 10.5
売上	柏崎	▲ 11.1	0.0	16.7	▲ 28.6	▲ 3.1	▲ 7.1	0.0
	全国	▲ 1.6	1.2	8.4	9.9	13.3	9.2	▲ 0.8
採算	柏崎	▲ 37.0	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 35.7	▲ 28.1	▲ 39.3	▲ 7.1
	全国	▲ 29.5	▲ 25.5	▲ 21.2	▲ 14.2	▲ 14.0	▲ 12.1	▲ 15.0
資金繰り	柏崎	▲ 11.1	▲ 7.4	▲ 10.0	▲ 14.3	▲ 3.1	▲ 7.1	▲ 3.6
	全国	▲ 18.4	▲ 17.1	▲ 11.8	▲ 13.1	▲ 13.3	▲ 13.6	▲ 14.2
仕入単価	柏崎	▲ 77.8	▲ 81.5	▲ 76.7	▲ 71.4	▲ 65.6	▲ 67.9	▲ 57.1
	全国	▲ 82.0	▲ 78.7	▲ 76.5	▲ 73.3	▲ 69.6	▲ 68.4	▲ 52.2
従業員	柏崎	11.1	11.1	23.3	10.7	12.5	17.9	21.4
	全国							13.1
資金借入難易感	柏崎	3.7	7.4	10.0	3.6	3.1	3.6	7.1



<移動平均分析(製造業)>



【全国製造業の動向】

エネルギー価格の高騰によるコスト負担増は継続しているものの、国内における非製造業を中心とした設備投資需要が堅調に推移する他、部品の供給制約の緩和により挽回生産が進む自動車関連が全体を牽引し、改善。

<日本商工会議所に寄せられた声>

- ・「収益が改善してきたため、生産性向上に向けた情報端末を導入し、IT化を実施。今後は情報管理に向けた社内教育や、関連資格の取得を奨励し、機密情報に関する社員の意識向上に努める」(工業用プラスチック製品製造業)
- ・「受注数の増加に加え、材料供給も安定しており、売上は伸び始めている。エネルギー価格の高騰による収益圧迫が課題である」(自動車・付属品製造業)

【柏崎製造業の動向】

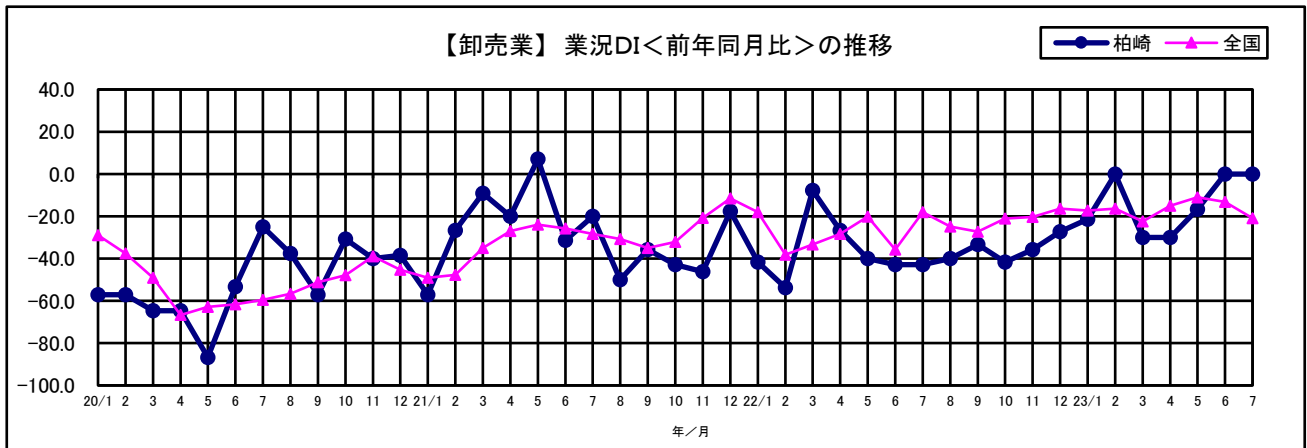
業況DIにおいて、わずかにマイナス幅の縮小が見られたが、売上・採算・資金繰り・仕入単価DIにおいて、いずれもマイナス幅の拡大が見られた。一方で、先行き見通しのいずれのDIもマイナス幅が縮小する見通しとなっている。

<柏崎商工会議所に寄せられた声>

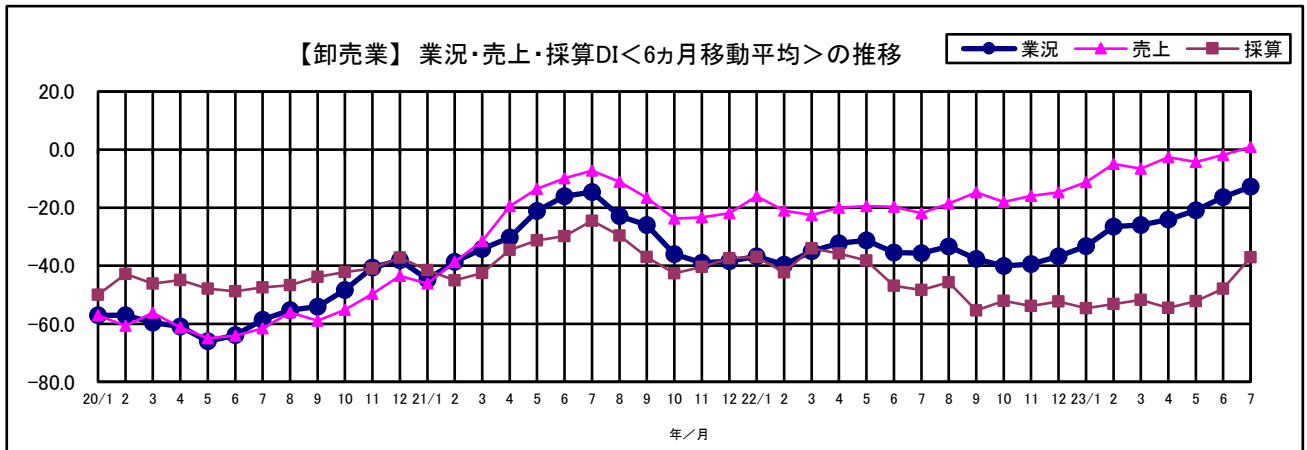
- ・主力のピストンリングの生産が減少。自動車各社の生産は前年比増のメーカーがほとんどなのは対照的。
- ・昨年に比べるとユーザーの発注数が落ちた。先行きは読めないがしばらくは上昇しないのではないかと感じる空気がある。
- ・求人難。

【卸売業】

項目		23年2月	23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	先行き見通し 8月~10月
業況	柏崎	0.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 16.7	0.0	0.0	▲ 8.3
	全国	▲ 16.4	▲ 22.4	▲ 15.0	▲ 11.0	▲ 13.2	▲ 20.9	▲ 20.4
売上	柏崎	11.1	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 16.7	14.3	16.7	33.3
	全国	2.2	0.0	4.2	5.5	1.6	0.0	▲ 5.7
採算	柏崎	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 28.6	0.0	▲ 8.3
	全国	▲ 20.4	▲ 20.3	▲ 16.7	▲ 13.1	▲ 14.8	▲ 17.0	▲ 19.6
資金繰り	柏崎	▲ 11.1	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 16.7	▲ 7.1	0.0	▲ 16.7
	全国	▲ 6.6	▲ 15.2	▲ 10.4	▲ 11.4	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 8.7
仕入単価	柏崎	▲ 66.7	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 66.7	▲ 71.4	▲ 66.7	▲ 41.7
	全国	▲ 73.0	▲ 73.0	▲ 64.6	▲ 67.1	▲ 67.1	▲ 57.4	▲ 56.1
従業員	柏崎	0.0	20.0	40.0	25.0	7.1	25.0	33.3
	全国							14.3
資金借入難易感	柏崎	▲ 11.1	0.0	0.0	0.0	▲ 14.3	8.3	8.3



<移動平均分析(卸売業)>



【全国卸売業の動向】

政府の激変緩和策の段階的な縮小による輸送費等のコスト増に加え、猛暑等の天候不順で客足が減少した小売業・サービス業からの引き合いが減少したほか、一部地域での大雨の影響による物流の停滞も重なり、悪化。

<日本商工会議所に寄せられた声>

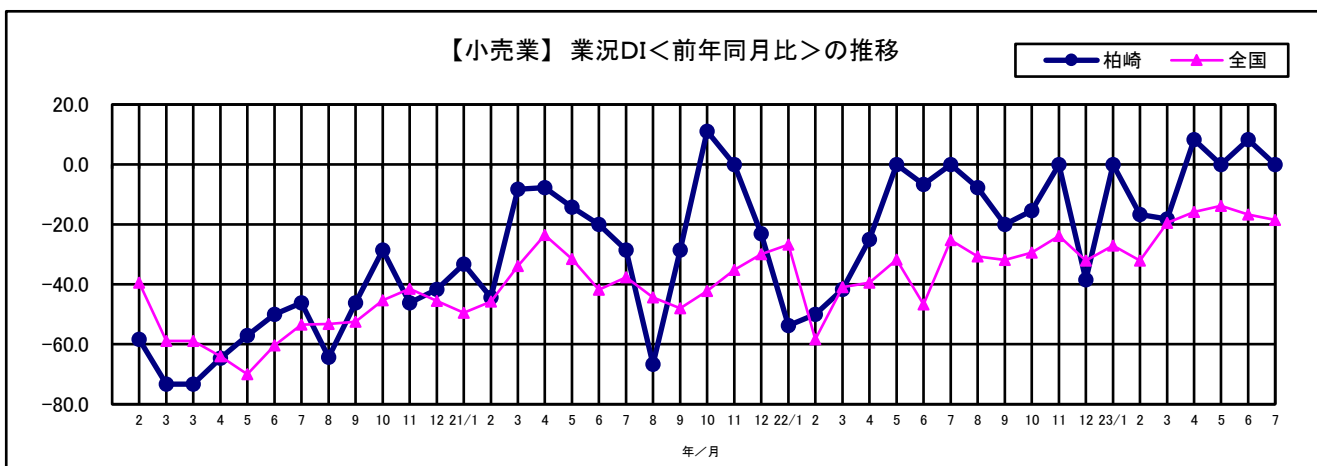
- ・「経済活動が回復したことで、観光需要も増加しており、土産品関連の包装資材の受注が増加している。一方で、物価高の影響で日用品や内食関連の受注は低下しており、総じてみると厳しい状況が続いている」(包装資材卸売業)
- ・「天候不順の影響で供給・価格が安定しない品目が多発しており、売上が安定しない状況が続いている」(農畜産水産物卸売業)

【柏崎卸売業の動向】

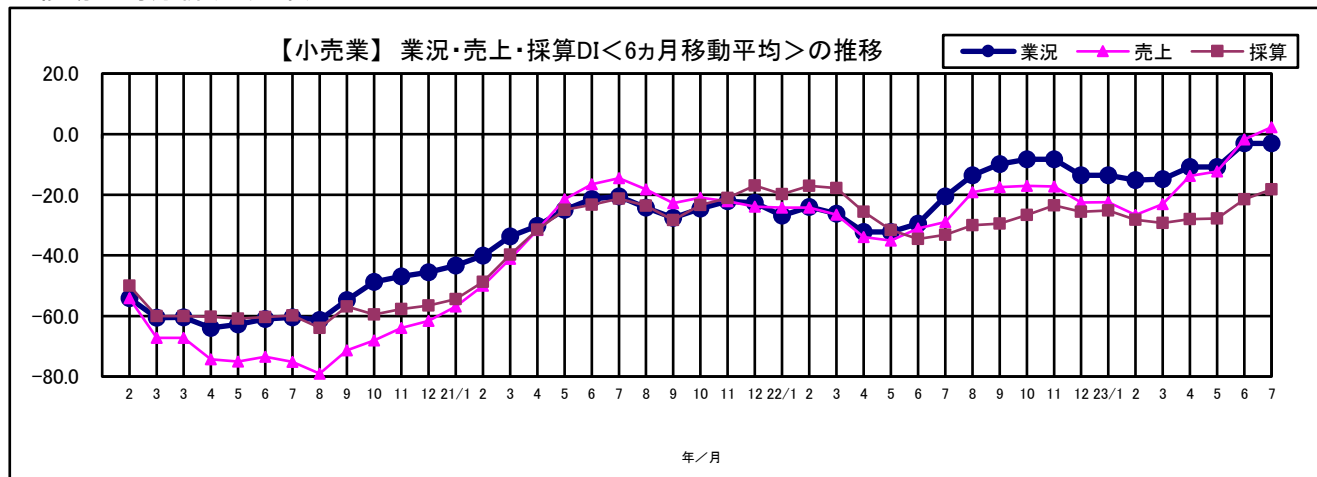
業況DIは0.0と、前月期同様のDIとなった。採算・資金繰りDIは0.0とマイナス幅の縮小が見られた。しかし、先行き見通しの業況DIは▲8.3と、マイナス幅が拡大する見通しである。

【小売業】

項目		23年2月	23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	先行き見通し 8月~10月
業況	柏崎	▲ 16.7	▲ 18.2	8.3	0.0	8.3	0.0	7.7
	全国	▲ 25.9	▲ 19.5	▲ 15.9	▲ 13.8	▲ 16.7	▲ 18.5	▲ 20.4
売上	柏崎	▲ 33.3	▲ 18.2	25.0	0.0	25.0	15.4	15.4
	全国	▲ 8.6	▲ 6.8	2.2	▲ 3.8	▲ 4.9	▲ 1.7	▲ 4.9
採算	柏崎	▲ 41.7	▲ 36.4	0.0	▲ 15.4	▲ 8.3	▲ 7.7	▲ 7.7
	全国	▲ 28.4	▲ 23.4	▲ 18.8	▲ 16.4	▲ 17.6	▲ 17.0	▲ 19.6
資金繰り	柏崎	▲ 8.3	▲ 18.2	0.0	▲ 7.7	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 7.7
	全国	▲ 24.0	▲ 19.7	▲ 19.0	▲ 14.3	▲ 18.4	▲ 18.5	▲ 21.2
仕入単価	柏崎	▲ 66.7	▲ 54.5	▲ 58.3	▲ 61.5	▲ 41.7	▲ 61.5	▲ 61.5
	全国	▲ 75.6	▲ 74.2	▲ 77.6	▲ 68.4	▲ 71.3	▲ 69.7	▲ 68.0
従業員	柏崎	33.3	18.2	50.0	30.8	33.3	38.5	38.5
	全国							16.7
資金借入難易感	柏崎	▲ 8.3	▲ 18.2	▲ 8.3	▲ 7.7	0.0	▲ 15.4	▲ 15.4



<移動平均分析(小売業)>



【全国小売業の動向】

インバウンド需要の増加で百貨店では売上が引き続き好調な一方、物価高による日用品の買い控えや電気代等のコスト負担増が全体を下押し、悪化。事業者からは、猛暑や大雨の影響で客足が減少し、売上が低下したとの声が聞かれた。

<日本商工会議所に寄せられた声>

・「仕入価格の上昇に加え、光熱費も高騰しており、コストは増加が続いているが、物価高で消費者の購買意欲が低下している中で販売価格に転嫁することは難しい。また、連日の猛暑で客足も減少しており、来客数も客単価も落ち込んでいる」(総合スーパー)

・「輸送費が上昇しており、コストが増加している。効率的な配送計画を実施し、省エネに努めていく」(家具小売業)

【柏崎小売業の動向】

業況DIは0.0と、前月期から8.3ポイントプラス幅が縮小した。仕入単価DIは▲61.5と大幅にマイナス幅が拡大する見通しとなっている。先行き見通しの業況DIは7.7とプラス域に転じる見通しである。

<柏崎商工会議所に寄せられた声>

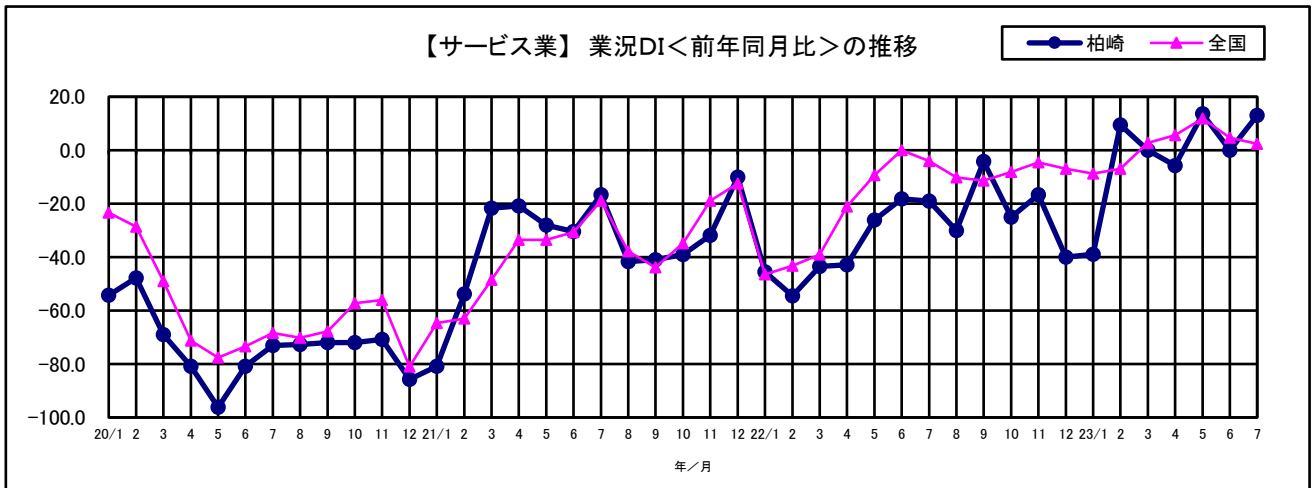
・まだまだコロナ前の売上にはならないが、人が動いているので、疲弊感は少ない。

・暑い日が続く、客数が少なかった。

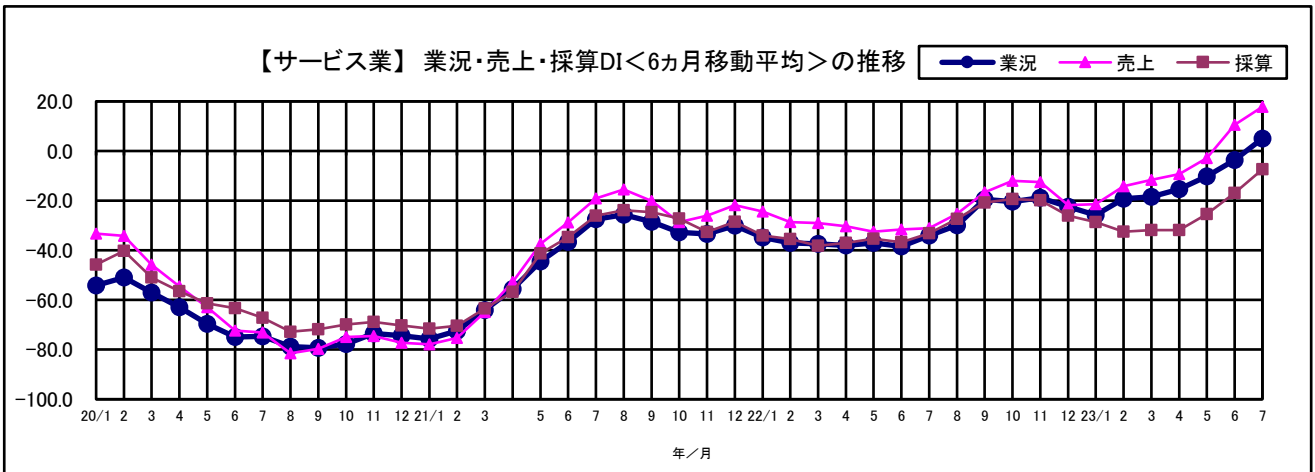
・7月は決算月であったが、昨対比以上の数値をあげることができた。新しい取り組みで、戦略をドンドン進めていきたいと考えている。広いマーケット(絶対分母)に戦略的に攻めていく。

【サービス業】

項目		23年2月	23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	先行き見通し 8月~10月
業況	柏崎	9.5	0.0	8.3	13.6	0.0	13.0	▲ 4.3
	全国	▲ 8.6	2.8	5.6	11.9	4.7	2.4	▲ 2.4
売上	柏崎	▲ 19.0	23.8	8.3	13.6	25.0	21.7	▲ 4.3
	全国	10.0	▲ 19.4	21.5	21.6	15.0	16.4	3.6
採算	柏崎	▲ 42.9	▲ 4.8	0.0	9.1	▲ 4.2	13.0	4.3
	全国	▲ 18.7	▲ 8.1	▲ 1.4	1.9	▲ 6.1	▲ 5.3	▲ 8.5
資金繰り	柏崎	▲ 14.3	▲ 4.8	▲ 4.2	4.5	0.0	8.7	4.3
	全国	▲ 17.9	▲ 11.0	▲ 11.8	▲ 6.4	▲ 10.0	▲ 8.7	▲ 8.9
仕入単価	柏崎	▲ 85.7	▲ 66.7	▲ 62.5	▲ 68.2	▲ 70.8	▲ 64.0	▲ 56.0
	全国	▲ 69.5	▲ 67.4	▲ 68.7	▲ 66.5	▲ 66.0	▲ 63.2	▲ 57.6
従業員	柏崎	4.8	14.3	4.2	18.2	12.5	25.0	29.0
	全国							31.9
資金借入難易感	柏崎	0.0	0.0	▲ 4.2	4.5	4.2	0.0	▲ 2.0



<移動平均分析(サービス業)>



【全国サービス業の動向】

飲食・宿泊・観光業を中心に客足は回復基調が継続も、需要増に伴う人手不足や電気代等のコスト負担増が重荷となり、悪化。事業者からは、夏休み需要の本格化を控え、個人消費の拡大に伴う売上増加を期待する声が聞かれた。

<日本商工会議所に寄せられた声>

- ・「近隣のイベントも再開され、国内旅行需要の回復でほぼ満室の稼働となっている。夏休みも本格的にスタートするため、さらなる売上増加を期待している。一方で、従業員は全体的に不足しているため、採用を進めているが、進捗が良くない」(宿泊業)
- ・「観光需要が回復する中で、働き方改革への対応が課題。2024年問題への対応として、労働時間管理システムを導入した」(一般乗用旅客自動車運送業)

【柏崎サービス業の動向】

業況DIは13.0と前月期からプラス幅が拡大した。売上・採算・資金繰りDIいずれもプラス域となった。一方で仕入単価DIは他業種同様、低い水準での推移となっている。